

令和5年12月6日(水)
向日市立第4向陽小学校
学校運営協議会事務局

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 会長挨拶

会長:地域学校協働で学校と地域が関わりをもつというお手伝いをしているが、同じように考えていけばよいのか
学校の負担にならない、押し付けにならないように、学校のためになるような活動をしていきたい。一緒に考えていけるような会にしていきたい。

校長:どちらかという、地域学校協働は実働部隊。ここでの思いを反映していきたい。
遠慮せず、奇譚のない意見はいただきたいと考えている。
アドバイスをいただいて学校をよりよくしていきたい。

2 校長より(最近の学校の様子)

校長:体育大会では、ご来校いただき、助けていただきありがとうございました。
昨年度、来れなかった児童も、参加できるなど嬉しいことがあった。

コロナが明けて、学校や友人関係に不安を抱えている児童が増加している。
向日市でも人がついて別室が置かれている学校があるが本校ではない。
その中で、独自で場を用意し、安心して登校できる場所を作っている。それで登校できている子がいる。

登下校の見守りでは、お一人おやめになった方がいたが、代わりの方がお二人交互に立ってくださっているなど、心強く、助けていただいている。

PTAも軽スポーツ大会で楽しく交流したり、本日もボランティアの方や学級委員の方が来て、読み聞かせに参加していただいたりとする事ができた。
このように学校と関わっていただける場面が増えてありがたい。

議員:見守りについて、帰りに時間のある時にできると言っている方がおられる。
腕章や服など、身につけるものはあるのか?立っているだけで良いのか?
「声をかけていくと、最後には子どもから声をかけてくれることがあったり、何度か立っていると「なんで昨日いなかったん?」と児童から聞いてくれたり、という嬉しい気分になったという声が届いている。

家の近くに子どもがいない。学校に来てはじめて子どもの顔が見える。そう感じている年配の人は多いと感じる

学校が「こんなことをしてほしい」「これを困っている」という声を教えてほしいそれで学校を助けていけたらよいと感じる。

学校で別室をつくるなど、丁寧にしてくださってありがたい。

3 熟議 「学校と地域のつながりについて」

4 向小の児童数と教職員について

学校の規模は全然違う。児童数が違うのに、管理職が同じ数であることに疑問負担が大きいのではないだろうか。

俯瞰的に見て、昨今の学校の抱える問題がいろいろある中で心配している。

4 向小の環境

昔からある、地域に根付いた地域というより、新しくマンションがたくさん建ち、児童数も急激に増えている状況。

かつては地藏盆・地域の運動会など、大いに盛り上がっていたが、体振が抜けたり、児童数が減ったりした時期もあり、継続が難しくなっている。

その中で、昔からの学校を知っている自分たちが力になれることがあるのではないかと考えている。

かつて、寺戸事務所に連絡して、京都市の「ゲコゲコタイム」にならって、全戸に登下校の見守りのお願いの手紙を配ったことがある。

これをきっかけに立って下さった方が 1 人いた。千人に一人かもしれないが、もっともっと知らせていくことが大事

かつて、毎日、挨拶で立っていると児童の様子やその日の気分など分かることがあった。

登下校など、頼めば手伝ってくれる高齢の方などは、たくさんいると考えられる。

学校側からも知ってもらうための努力は必要。

HP で配信や学校だよりなど、周知活動、アピールできたらよいのではないか。

助けてほしいこと、求めていることを伝えていくとよいのではないか。

学校だよりは、地域の各戸への配布はなくなったのか？

→現在は寺戸事務所での閲覧となっている。

4 その他

3 回目について…

本日の熟議でできた内容について、参考にし実行できることはして、報告もしたい。

これからもお力を貸していただきたい

最後に

副会長：人の繋がりが希薄になっている。コロナ前に戻す？戻さんでええやん…となっている風潮は寂しい。

子ども同士で解決できることでも先生が入らないといけない場面も多い

子ども同士の繋がりが大切にしていきたい。